

検討テーマ		第1回会議で出された主な意見	各種団体（3団体）との意見交換で出された主な意見
中心市街地全体	ベース【土台】となる考え方 「住んでいる人の暮らし」「日常」をベースにまちの質を高める 地元の人が楽しむ日常の豊かさ・多様さ・メリハリがまちの魅力となり、多くの人を惹きつける	● どの目線を大事にするかでまちづくりが変わる ● そこに住んでいる人の心が大事 ● 就職した人が松本に求めるもの、一生ここで働き生活したいとした理由が重要 ● まちは誰のためにあるものなのか。まずは、住んでいる人たちにとって、どのようなまちでありたいかがあって、その上に観光客が乗ってくるイメージ ● 住んでいる人たちの一人ひとりの幸せとか豊かさや「住んでいて良かった」「松本に住みたい」という個々の生活のベースがあって、そのベースが非常に魅力的であるまちは、外から見た人にとっても当然魅力的 ● 松本市全体で見ると、観光と商業が中心部の役割ではあるが、一方で、まちなかの居住、新しい暮らし方を担う場所でもある	● 地元の方が楽しむ日常の身近な魅力をこつこつと創ることが大切 ● 市民一人ひとりがビジョンに向かって共に考え歩める目標でなければならない ● キーワードとしての「日常」「のんびり」など、守るべき方向性を言語化してみても ● 豊かな日常があれば住んでいる人が幸福になれる ● 非日常は日常が支えている ● 住んでいる人にとって良いまち。住みたいまち。住みやすいまち ● 松本に住む人、働く人、訪れる人が10年、50年、100年と魅力を感じてくれる都市 ● 各論ではなく、松本の大きな構想・理想論をつくって議論してほしい ● 松本のまちとしての特徴はミキシング（混合する）。例えばトラディショナル（伝統的）とモダン（現代的）。調和、メリハリ、多様性、両極をのみこめる街
	中心市街地に人が住まう、新たなまちなか環境（居住）に関すること	● 住んでいる人が多くなる、松本が好きな人が増えることが基本 ● 一番地域の魅力を感じてほしい、アイデンティティを醸成してほしい場所で、次の世代の人たちとの接点が減ってしまっている ● 子どもの遊ぶ場所がない ● まちなかで子育てをすると危ないというか、子どもが小さい時は手を離せない ● 松本の人自身が、中心市街地で色々な挑戦ができて、その結果として、若者たちは松本に戻ってきたり、住み続けたいくなるような場所にすることが大事 ● 駅前広場や公園などのパブリックスペースを、いかに魅力的な人々が使いたくなる、行きたくなるディステーションにするか。そのことが都心居住とも関係していて、都心居住の新たな暮らし方、ライフスタイルを生み出すことになる	● 高層マンションが建設された場合、30年後、60年後に同規模の更新はできないのでは ● マンションを前提とした集積化・高度化を目指すのであれば、中心市街地における暮らし方、住まい方を議論すべき ● 住宅やマンションを増やせばいいわけではなく、まちなか居住のイメージが必要 ● 危険でまちなかで子どもを遊ばせられない。子どもだけで遊べる場所がない ● 既に若者にとって中心市街地は住む場所ではなくなっている ● 住居兼店舗の時代は人の付き合いがあったが、中央西区画整理事業で拡張と車社会の便利さを追求めた結果、失われていった ● 本町で生まれ育った先輩がまちなかに戻ろうとし、実践したが長くは住めなかった。人が住むことで生まれる賑わい、住むために必要な都市機能について考える必要がある
中核エリア	❶ 地元の人が関わり続けることができるまちなか整備（投資）に関すること	● 官でなければできないことの1つがルールの設定と変更。変更には規制と緩和があるが、統一の方向性、方針を打ち出すには、このルールとビジョンが非常に重要 ● 都市計画は規制と緩和だが、需要と将来を見通した上で必要かどうかの議論が必要 ● どこまでが自由経済の中で進んでいくべきなのか、地元の店舗をどうやって守っていくのか、その人たちの当事者意識や、向かう方向を合わせていくことが大事 ● 大きなインフラの再構成と同時に、更新が必要な建築ストックを細やかに再生させることはピンチをチャンスに変えるということではあり得る ● リノベーション、小さな投資によって、文化・芸術的な使い方、あるいは学生が使う場所などを細やかに駅周辺に入れていく未来像もあり得る ● 女性と若者が挑戦したり、お店を開いたり、自分の好きな環境を生み出せる場所が大事 ● 大きな投資とリノベーションくらいの比較的小さなサイズの投資では何が変わるかという、地元の人たちがどのくらい主役になっていけるかということ。大きな規模になると、どうしても地元だけで何かすることが非常に難しくなってくる。どのエリアで、どのようなことを、どの投資サイズで行うかは重要	● 何のために民間投資を促進する必要があるのか、目的を明確にするべき ● 松本駅東地区の集積化・高度化は、現在の土地利用状況からの必要性、見直しによる土地利用の誘導方向とまちづくりの関係性、将来に渡る建築物の管理面を考慮すべき ● 松本市は他市に先駆けて都市美観研究会を立ち上げ、景観計画に引き継がれてきた ● 駅周辺の土地区画整理事業関連で整備したインフラ、民間建築物等の老朽化は深刻な社会問題になることを踏まえれば、いかに更新しつつ新たな街の魅力を創出するかが最大のビジョンになる。そのための手段の一つが高さ制限の見直しにあると受け止めるが、一つであって唯一でない幅広い議論を望む ● 多くの家主は、テナント貸しでまちに継続的に関わっていない。ただ、今は関わっていない人でも、松本が良くなってほしいという思いはある。大きな資本だけでなく小さな資本のところにも焦点を合わせて、意見を吸い上げてほしい ● パルコが松本に出店した決め手は、都市としての吸引力と教育機関の充実、ものづくりやデザインに関心が高いという松本の都市特性によるものだったと聞いている ● 専門的ではないが、ある程度の深さがあって雑多な多様性があるのが松本の街の魅力
	❷ 交通・ウォークアブルを含めた人の移動に関すること	● アンケートでは中心市街地の課題で交通渋滞が多いというのが一番上にきているこの交通渋滞をどう捉えるか、もう一段しっかりと議論しないと答えは出ない ● 歩行者と自動車、公共交通と自動車のバランスをどう取るかが大きな論点 ● 松本駅前から松本城までの既存道路をどうするかまで踏み込むのかどうかは重要な点 ● 車保有率や利便性から、何かしら規制を強化すると利便性が損なわれる中で、一番は住んでいる人の理解を得つつ、駅前の動線について検討の余地があるのでは ● このエリアに來たい車の数と、捌くことのできる道路網を考えた場合、松本の中心市街地は、車に関連する不満を解消するのは苦手なタイプの都市構造 ● 松本は一方通行が多い。むしろ徹底的に一方通行にしたらどうか。道路を拡幅せずに一歩通行で交通処理できるところがあるのでは ● できるだけまちなかに車を入れない。フリンジに駐車場を持ってくる。駅周辺と限られた所に車を停めて、歩いてもらう仕掛けが必要 ● 松本駅から職場までの道は本当にゆっくり街を見ながら歩けるところ、これが本当に必要 ● まちなかで子育てをすると交通事故にあわないという安心感があることは大事 ● 善光寺の前の参道は歩いているだけで結構ワクワクする。松本にも必要 ● 交通網の中で松本駅は重要なカテゴリー。駅のお城口を降りたら2車線の道路があり、車は交通渋滞を起こしているが変えられるかどうか ● 高速バスのターミナルは駅前のプラザにあるが、駅のアルプス口にあって、そこが県外からの玄関口になれば、そこから歩く街並みがつくれるということもある ● 新たな交通モードを含め、交通問題を限られた中心市街地のスペースの中でどう解いていくか。そこに合わせた形で駅前広場の機能も再配置しなければいけない ● 東京駅では丸の内側の駅前広場を改修したが、あれは交通機能をだいぶ変革し、歩いて楽しめる、ないしは緑を増やすというような駅前広場にしたが、そのようなことをどこまでやる必要があるのか。この問題意識を色々な方と議論するに当たっての共通認識にしないと議論がおかしな方向にいく	● 未来を見据えた大胆な交通インフラと中心市街地に繋がる道路の見直しが必要では ● 新たな公共交通の導入も見据えながら、松本駅西エリアの再開発は大胆にしては ● 無目的でも時間があれば、新しい人やモノ、コトに出会うために、行きたくなるようなまち ● ぶらぶらして心が躍る発見がある、馴染みのお店がある、人の出会いがある、そんな空間に人が集まるのでは ● まちなかが歩きやすく、自転車安全に走れ、まちなかに駐輪場があり、公共交通が充実している姿が理想 ● 地元の個性的なお店や顔の見えるお店があり、車で来るが一旦停めてしまえば、安心・安全に歩ける環境が大事 ● まちなかに来る人は車が中心。長野県は車保有率が高く、車での移動は外せない ● 商業ビジョン策定時のアンケートでも、駐車場が少ないことや駐車場・駐輪場の充実が求められている ● イオンでは平日5時間無料だが、まちなかの駐車場は有料 ● 松本市がどうあるべきか、駐車場が必要ないならやめることもあり得る ● まちなかの思い出や記憶、シーンは、移動スピードに関係しているのでは。同じ場所でもバイクの自転車と通過するとあまり憶えていないが、歩いたときは憶えている ● 楽しむことは感じるのなら、むだな時間、ゆっくり動くことが大事 ● 人がゆったりできる、駐車料金も気にしないで済むことも重要 ● 一つの手法としては、松本駅前にペDESTリアンデッキを設置し、2階を歩行者に、1階をバス・タクシー・自家用車にあててすることで、駅から伊勢町方面、国分町方面、メインストリートには車道を渡らずに徒歩で移動できるなどが考えられるのでは ● 市が持っている土地をいかに使うか。まちなかで車を遮断する、安心して時間を費やすことのできる空間が必要では

検討テーマの整理シート（No.2）

検討テーマ		第1回会議で出された主な意見	各種団体（3団体）との意見交換で出された主な意見
中核エリア	③ 駅・道路・公園などの公共空間（パブリックスペース）に関すること	● 松本は経済や商業という面での強みというよりも、やはり文化・芸術といった面のイメージが強い。これはなかなか育てられるものではなく、松本が築いてきた歴史に裏付けられた非常に重要な価値 ● 駅前の大きな課題は、松本の持つ文化・芸術の力、文化と芸術の近くに生活があるという強みが、唯一欠けている。何かその点で考えられないか ● 小さい子どもたちが学び、遊べる場所が必要。全てにおいてお金がかかるのではなく、無料であることも含めた機能が必要 ● 中核エリアに遊びに来てくれるような空間づくりが、中心市街地の役割としては重要 ● 駅前はかなりポイント。駅前広場を何とかできないか ● 駅前周辺には緑の問題もあるが、人が溜まる場所がない ● 駅前には交通ターミナルだけでなく、賑わいを創出するものや憩いの場があるのがベスト ● 公共のために使える土地は限られている。東京のように高度化して重層化すればいいというまちではないのでは。そうだとすると、土地を平面的に使っていかざるを得ないということ考えた時には、一定程度の機能の再配置が必要になってくる ● どの機能をここに持ってきて、どの機能は他の場所に持っていくということをしっかりと議論していかないといけない ● 民間投資を呼び込むには公共投資が必要。公共が思い切って手を打たないと民間もなかなか投資してくれない ● 公共空間としては、駅前広場もあるが、花時計公園や駅前記念公園があり、ものすごい可能性を秘めている空間ではないか ● 女性と若者が集まるとか、アンケートの中でも公園がほしいと言った場合の公園とは、恐らく今、松本にはないパブリックスペースや公園を求めている声 ● 街区の中心にある公園を上手く再生させることで、その周囲に、人々が自分の居場所と思うような公共空間ができて、結果として新しい一人ひとりの小さな投資が始まってお店が出てくる	● 歩いて楽しい、居心地の良い空間は、公共空間の豊かさがあったこそ ● 子どもやお年寄りのための場所が開かれていることが重要 ● 女性と若者が集まるとすることに違和感がある。女性にも、若者にも、それ以外にもということではないのか ● 若い人たちがどのような志向で、まちに何を期待するかを知ることが重要 ● 若者がまちなかに滞留することが活性化の重要な要素 ● 今の子どもたちは、まちなかで楽しんだ経験がない ● まちなかを散策する際に、道路が狭く、ゆっくりお店を見たいけど車が気になる。安心してゆっくり見られる道路であればよい ● 松本のへそとして、公園のようなメインストリートをつくる。既成市街地の再生は「おへそとなるメインストリート」からスタートさせ、住、職、学、遊、憩などの機能をメインストリートに集積させて、そこは歩行者専用の空間にしてはどうか ● 新たに建設するビルの1階部分に商業店舗を入れていくようなことが制度化できないか ● 市が持っている土地をいかに使うか。まちなかで車を遮断する、安心して時間を費やすことができる空間が必要 ● 駅前からメインストリートには「楽都」の要素を取り込んではどうか ● 誰もがお金をかけずに享受できるまちなか空間をつくることが大事。長時間いても干渉されない、追い出されない、時には食事でもできる空間。今、それらをまちなかで兼ね備えているのがイオンモール。だから若い人はイオンモールに行く ● 昔はまちなかに小さな公園がいくつかあった。そこに子どもが集まっていたが、今はあがたの森やコモ庄内まで行かないとな ● 海外の旅行先でも思い出に残るのは、有名な美術館などではなく、そこに住んでいる人が集まる公園の風景 ● 花時計公園や駅前記念公園をリノベーションすれば周囲にも波及し、人が人を呼び、多様な属性の人が集まるので、まちなかへの再投資も必要
	④ 自然の近さ・豊かさとおまの繋がりに関すること	● 目で見てどれだけ緑・日陰があるのかという点が重要 ● まちなかを歩きたいが、日陰がないので歩きたくなる部分もあるのでは ● 松本は長野県の中で緑被率は高いが、駅から中心市街地へ向かう道筋には、緑や日陰がほとんどない ● 市街地は土がない。新たに木を植えるところが少ないのが現状 ● 長野県と市でグリーンインフラの取組みを進めている。松本駅から、あがたの森通りはシンボルストリートということで、現在、松本建設事務所と連携している ● 中心市街地をここだけで考えるというよりは、いかに松本の他のエリア、周辺地域との繋がりで考えるか。また、人の繋がりでだけでなく、山と街をどう繋ぐのかという議論は必要であり重要なテーマ	● 松本は標高差、気温差があり、自然の豊かさを感じる ● 自然環境のつながりをまちの中で感じられることが、松本に住むことのメリット ● 松本は自然豊かなアルプス公園も近く、都会的な面もある ● 東京では緑や自然を見るためにお金を払うこともあるが、松本ではどこにでもある。わざわざ出向かなくても身近にあるところがいい
	再活性に関わる 段階的な取組み・スケジュール	● 公的部門、民間部門、市民社会部門、3つの部門にはそれぞれ得意分野があり、市街地をどうしていくのかという場合、単独ではなく3つが役割分担しながら連携することが重要 ● 中心市街地の再設計やデザインは非常に長い時間がかかるものと認識している ● 行政だけでなく、公民学の連携、特に民と、これも松本の強みだと思うが信州大学もあるので、そこをしっかりと巻き込むような仕組みや体制が必要 ● 公民学の連携が中心部を動かすエンジンになるので、そのデザインも重要 ● 再開発は当然合意をとっていくので期間が長くなる傾向にある。こういった時間軸でやっていくのか。あまり長すぎると、投資をしたくても乗れないということも出てくる ● 法律があるので簡単にはいかないが、道路の話と投資に向けた法律の整備は非常に重要 ● 今回は、中心市街地の退店される店舗や、駅前施設の老朽化が課題が背景になっているので、残されている時間はあまり長くない。議論自体は迅速に行う必要がある	● プロセスを示すことが大切。作成した見取り図を更新していく仕組みが大事だが、見取り図、ビジョンが3～5年サイクルで変わっていくとしたら問題があるかも ● 見取り図が大きな方向性を示すものであれば、それを具体化したビジョンのようなものは必要 ● 政策を進めていく場合には、いくつかの時間軸がある。それら複数の政策の時間軸が合流していくことを政策の窓が開くと表現する人がいる ● 再活性に向けては、地権者などの権利調整などにおいて、行政、民間、大学などが連携することが重要。手法の一つに、まちづくり会社などもある